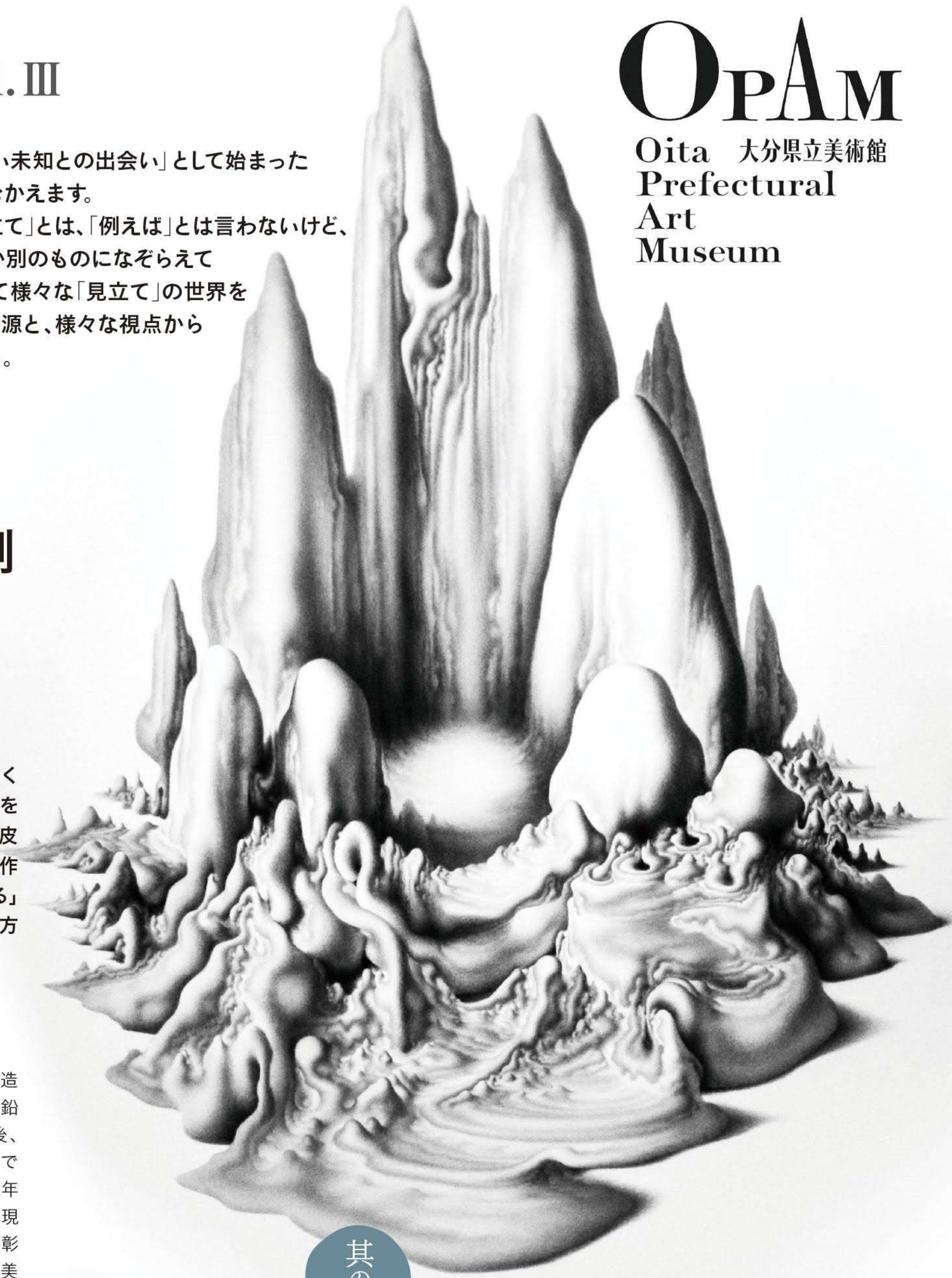
「見立ての世界」

特別ワークショップ＆レクチャー

未知っち、見ちっち vol.Ⅲ

OPAM
Oita 大分県立美術館
Prefectural
Art
Museum

「科学との出会い」「芸術との出会い」「新しい未知との出会い」として始まった「未知っち、見ちっち」シリーズも第三回をむかえます。
今回のテーマは「見立ての世界」です。「見立て」とは、「例えば」とは言わないけど、喩えている。身のまわりのモノ・コトを、何か別のものになぞらえて表現する「見立て」。芸術のメタファー、そして様々な「見立て」の世界をのぞきます。美術・科学・歴史・建築・文化資源と、様々な視点から展開されるお話を、みんなで楽しみましょう。



其の一

風景とそのむこう側

講師：妻木良三（美術家・浄土真宗僧侶）

2022年12月3日［土］
13:30～16:30

布の皺や襞をイメージの源泉とし、鉛筆で描く美術家の妻木良三さん。その作品は、須弥山をはじめとした山や風景を思わせるものから、皮膚や体内のようなものまで様々ですが、その作品制作方法のきっかけとなる「風景を形づくる」行為について、そして美術におけるモノの視方や感じについて伺います。

profile
妻木良三／美術家
1974年和歌山県生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻油絵コース修了。1998年より鉛筆による絵画を描き始める。東京での活動の後、2008年に和歌山県湯浅町に帰郷、自坊の本勝寺で僧職を務めながら独自の世界を表現する。また近年は写真やコラージュといった分野にも取り組み、表現の領域を広げている。2016年度和歌山県文化表彰文化奨励賞を受賞。2022年7月に和歌山県立近代美術館にて、妻木良三「はじまりの風景」を開催。

其の二

見えると見る～
米を占う菌類たち

講師：細矢 剛（菌学/国立科学博物館植物研究部長、筑波実験植物園長、日本菌学会会長）

2022年12月17日［土］
13:30～16:30

大分県日田市の大原八幡宮で行われている米占い(粥占い)は、炊いたお米を神殿に1か月収めることで、生えるカビを見ながら、毎年の吉凶を占う神事です。神殿に納められているお米に生えてくるカビ。このカビを科学的視点から観察した細矢剛さんに詳しい話を伺いながら、参加者のみなさんとともに、このカビを科学的観察のスケッチ法にチャレンジします。さらに想像力でのドローイング遊びも行います。

profile
細矢剛／国立科学博物館植物研究部長 兼 筑波実験植物園長
日本菌学会会長
1963年生まれ。大学卒業後、製薬会社の研究員を経て、2004年より国立科学博物館に勤務。専門は菌類（きのこ・カビ・酵母）の分類や進化・生態に関する研究。動物でも植物でもない菌類の世界と、人間とのつながりをもっと知ってもらいたいと、展示や講演会などで、幅広く菌類の重要性をアピールしている。OPAMでは「未知っち、見ちっち vol.1 科学者と表現者」（2020年）、「What's Museum? お米とお酒を視る」（2021年）に続き、3回目の登壇。

大分県立美術館 教育普及室
〒870-0036 大分市寿町2番1号 TEL097-533-4502 https://www.opam.jp
https://www.facebook.com/OPAMeducation OPAM 教育普及 FB

文化庁 令和4年度 文化庁 Innovate Museum事業

特別ワークショップ＆レクチャー

「未知っち、見ちっち vol.Ⅲ 見立ての世界」

OPAM
Oita Prefectural Art Museum 大分県立美術館

其の三

銅鐸・その祈りと造形

講師：井上洋一（考古学／奈良国立博物館 館長）

2023年1月14日［土］
13:30～16:30

弥生時代にたくさん作られた釣鐘形の青銅器「銅鐸」。いったい誰が、どんな目的で作ったのでしょう。目にする銅鐸は緑色だけど、使っていた当時はピッカピカ。サイズもいろいろあるし、模様・文様も様々です。楽器なの？それとも祭器なの？まずはみんなで「何か」のために使われていたはずの「何か」を想像してみましょう。諸説ある中で、形状、文様をもとに、その用途を歴史や文化とともに伺います。

profile

井上洋一／奈良国立博物館 館長

1956年神奈川県相模原市生まれ。國學院大学大学院文学研究科日本史学専攻博士課程後期単位を取得。1985年、東京国立博物館（東博）に入り、東博の学芸部考古課先史室長や事業部教育普及課長、九州国立博物館学芸部長、東博学芸企画部長などを歴任。東博副館長を経て、2021年4月、奈良国立博物館長に就任。日本考古学が専門で、日本の青銅器文化の研究などを行っている。日本ユネスコ国内委員会委員、ICOM日本委員会理事として、文化財保護や博物館活動にも尽力している。2019年6月から2021年3月までは、大分県立美術館の特別顧問も務めた。

重要文化財 袈裟襷文銅鐸
（滋賀県野洲市大岩山出土）
東京国立博物館所蔵＝写真 ColBase

其の四

茶室とその精神

講師：遠山典男（茶室建築）

2023年1月21日［土］
13:30～16:30

狭くて暗い茶室には茶の湯の精神がたくさん込められています。茶室建築の特徴を歴史・意匠・材料・構法、さらにはそこで行われる茶の湯に焦点を当て、そこにはどのような精神性が込められているか、茶の湯空間における見立てとは何なのかを一緒に考えてみましょう。

profile

遠山典男／茶室建築 設計士 研究者

茶室建築を専門に設計・施工、修理工事などに従事。また茶室建築からみた日本建築史を研究することで、その背景にある日本人の精神性や美意識、宗教性、生活文化などを探る。裏千家今日庵営繕担当を経て、現在数寄屋建築 茶美会（さびえ）に所属。東京藝術大学大学院美術研究科美術専攻博士後期課程在籍。一級建築士。

「江ノ島名物の貝細工」（撮影＝土田ヒロミ）

其の五

「現代美術が細工見世物、美術展が開帳だったころの話」

講師：木下直之（博物学・美術史／静岡県立美術館 館長、東京大学名誉教授、神奈川大学国際日本学部歴史民俗学科教授）

2023年1月28日［土］ 13:30～16:30

江戸時代末期から明治時代にかけての見世物・絵馬奉納・開帳・書画会は、博物館・美術館のルーツでした。庶民にも開かれた公開展示の場だったからです。そこには現代と異なる楽しみがありました。文化資源としての「見立ての世界」についてもお話を伺います。

profile

木下直之／博物学・美術史

静岡県立美術館 館長、東京大学名誉教授、神奈川大学国際日本学部歴史民俗学科教授

1954年静岡県浜松市生まれ。専門は博物館学、美術史、写真史、見世物研究。近代日本美術を中心に、写真、建築、記念碑、銅像、祭礼、見世物など社会や国家にかかわる表現、物質文化全般について幅広く研究を行う。忘れられたもの、消えゆくものなどを通して日本の近代について考えてきた。OPAM教育普及には、連続講座「美術館をめぐる7つのお話」最終回、「その七 美術の境界をいったりきたり～美術館はどこへいく」（2020年）で招聘し、今回は2度目の登壇となる。

会　　場：大分県立美術館 2階 アトリエ＋体験学習室
対　　象：中学生から一般（要事前申込）
定　　員：40名程度（各講座）
参 加 費：無料
申込方法：希望する講座をホームページ [https://opam/jp] の申し込みフォームよりお申し込みください。
定員に達し次第、ホームページで受付終了をお知らせします。

—申込締切—
各講座の3日前まで

大分県立美術館　教育普及室
〒870-0036 大分市寿町2番1号　TEL097-533-4502　https://www.opam.jp
https://www.facebook.com/OPAMeducation　OPAM 教育普及 FB

文化庁　令和4年度 文化庁 Innovate Museum事業